

令和5年度 大野北地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和5年10月31日（火）午後6時から午後7時38分まで
- 2 場 所 大野北公民館 大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、奈良副市長、萱野中央区長、藤井環境経済局長、若林健康福祉局長、村田生涯学習部長、大田まちづくり推進部長、兼杉中央区副区長、榎本市民局長
- 4 出席委員等 21人
- 5 傍聴者 12人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	公共施設の再整備と淵野辺駅南口周辺のまちづくりについて
概要	<p>大野北地区まちづくり会議では「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会」での検討経過について、市の関係部署からの説明を受け、市に対して、意見や要望を行ってきた。その意見等も踏まえ、昨年度末に「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくりビジョン～鹿沼公園・公共施設再整備に向けて～」が策定されたと認識している。今後は、新たなステージとしてまちづくりビジョンに基づき複合施設の建設位置、諸室の配置やレイアウト及びスケジュールなど、更に具体的な内容を定めるプランを策定することと思われるが、引き続き地域の意見を反映して進めていただきたい。</p> <p>そこで、まず大野北地区まちづくり会議やまちづくりを考える懇談会において市に対して行う意見や要望が、今後、どのような形で新たなプランに反映されるのかを確認する意味合いから、昨年度に引き続き懇談会のテーマを「公共施設の再整備と淵野辺駅南口周辺のまちづくりについて」とした。市としての検討状況と進捗状況について、所管部署からの説明を求め、今後、策定される複合施設の具体的なプランについても伺いたい。今後、地域の意見をフィードバックできるようにするために懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>平成30年度に「大野北地区まちづくり会議報告書」において公共施設の複合化を提言した。</p> <p>平成30年度、令和元年度・令和2年度の「大野北地区まちづくりを考える懇談会」で公共施設の再整備と老朽化対策をテーマとしている。</p> <p>令和3年度の第7回まちづくり会議において、「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会」での進捗状況の報告を受け、世代間交流の実現に向けた意見や、基本計画の策定にあたっては、まちづくり会議の要望を反映して欲しい旨を伝えた。</p> <p>令和4年度の第2回まちづくり会議において、再度「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会」の、その後の進捗状況の報告を受け、前回同様に意見、要望を伝えた。</p> <p>令和5年度の第2回まちづくり会議において、現在の淵野辺駅南口周辺のまちづくりの進捗状況について、3月末に策定されたまちづくりビジョンを基に報告を受けたため、今後はどのような形で地域の意見を反映していくのか意見、要望を伝えた。</p>

市の取組
状況等

淵野辺駅南口周辺のまちづくりについては、次世代に引き継がれる持続可能な地区としての発展を見据え、大野北地区まちづくり会議や大野北地区まちづくりを考える懇談会の場で、多くのご意見をいただいたほか、市民検討会や有識者協議会において、様々な議論を積み重ねてきた。

また、アンケートやオープンハウスを適宜開催し、より幅広い市民の方々の意見なども伺いながら検討を行い、令和5年3月に、「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくりビジョン」を策定した。

まちづくりビジョンは、淵野辺駅南口周辺における公共施設の再整備及び持続可能なまちづくりに向けた取組の方向性を示したものである。

まず、第1ステップとして、鹿沼公園と図書館敷地を一体的に利用し、淵野辺駅南口周辺地域に分散している公共施設を集約・複合化することによる再整備や鹿沼公園のリニューアルを行うとともに、民間の知識やノウハウを活用し、サービスの向上や財政負担の軽減を図る。

次に、第2ステップとして、公共施設の再整備後に発生する跡地等の有効活用について、駅前自転車駐車場の再整備に伴う活用検討を含め、売却や貸付け等を行うことによる地域の活性化や本事業を実施していくための財源確保に取り組んでいくこととしている。

現在、市役所内では、第1ステップとなる公共施設の再整備と鹿沼公園リニューアルに向けた取組みを進めている。

複合施設の整備位置については、これまでいただいた市民意見を踏まえるとともに、立地や拠点性、景観、施工性、想定事業費などの総合的な観点から、まちづくりビジョンで示した3つの案から1つの案への絞り込みを進めている。

また、複合施設の内容については、市民活動のためのスペースや運営に必要なバックヤードなどの機能や規模の精査、現状では各施設で異なっている開館時間や休館日、諸室の貸出しルールなどについて、施設全体で一体的な運営を行うための調整、より効率的・効果的なサービスの提供に向けた民間活力の導入についての検討を進めている。

市民の皆さんのご意見については、「複合施設内の具体的な機能」「施設をつなぐ図書館の在り方」などをテーマとした「まちづくりワークショップ」を開催したほか、大野北中学校や淵野辺小学校への出前授業、子ども向けオープンハウス、まちづくり会議や各施設の運営協議会等、様々な機会を活用して、幅広いご意見を伺っている。

民間活力の導入に向けては、現在、令和6年1月までの期間で「民間活力導入可能性調査」を実施している。

8月に実施した民間事業者との個別対話には、30の事業者にご参加いただき、「提案段階から民間の意見を取り入れることにより、設計への配慮など、事業全体の品質向上やライフサイクルコストの低減につながる」ことや「物価や人件費が上昇しており、官民のリスク分担が必要」など、様々なご提案をいただいた。

なお、これまでの公共施設の整備においては、行政で設計を行ってから工事を発注していたが、今回の事業では、設計の段階から民間のアイデアを最大限に活かすため、行政として鹿沼公園や複合施設の整備に係る、例えば、貸室の数や概ねの面積、各機能の配置に係る考え方や配慮すべき事項などの要求水準を定めた

	<p>上で、具体的な内容についての民間提案をいただき、その中からより良いものを選ぶことを想定している。</p> <p>第2ステップとなる公共施設再整備後の施設跡地等の有効活用については、同じく複数の民間企業等に対してアンケート調査を実施し、駅前自転車駐車場の再整備や管理運営のみならず、淵野辺駅南口周辺の今後のまちづくりの取組みなど、ハード・ソフト両面で積極的なご提案をいただいている。</p> <p>今後、令和6年度中を目途に策定する「まちづくりプラン」では、複合施設を整備する位置や施設の内容、公園のリニューアルの内容等とともに、事業手法や施設の運営方法、また、駅前市有地の有効活用の考え方を示していく予定である。</p> <p>なお、「まちづくりプラン」の策定に向けては、「民間活力導入可能性調査」の結果のほか、大野北地区まちづくり会議や各施設の運営協議会などの関係団体との意見交換、オープンハウスや市民説明会の実施などにより、地域の皆さんの声を伺いながら、取組みを進めていく。</p> <p>「まちづくりプラン」策定後は、事業者選定に係る手続きを進め、令和8年度から複合施設や公園の設計を開始し、令和9年度から10年度に工事をを行い、令和11年度に複合施設の供用開始、令和12年度から公園を含めた全面供用開始を目指して、取組みを進めていく。(奈良副市長)</p>
--	--

懇談内容	
地区の発言	<p>複合施設になる図書館、青少年学習センター、国際交流ラウンジなどは、市の全体的な施設である。一方、大野北公民館、大野北まちづくりセンター、あさひ児童館は、大野北地区の地域としての施設と考えられる。</p> <p>鹿沼公園に市の全体的な施設と地域の施設を複合化すると地域性がなくなるのではないかと心配している。</p> <p>施設が一括管理されて、地域が使いにくい状態になると困る。コミュニティ室は、専ら自治会などの地域団体が活動の場として利用しているが、複合施設に統合されると地域団体の使用が現在より制限されるのではと懸念している。</p> <p>他の公民館では、コミュニティ室を別棟として独立させて、地域団体の使い勝手を良くしている事例もあるが、今後、複合施設内に設置されるコミュニティ室はどのような位置づけになるのか。</p> <p>公の施設が休館中でも、コミュニティ室を使えることも考えられるのではないかと。利用時間を9時から21時までではなく、早朝から夜遅くまで使えることや地元を優先して使用できることなど、地域と一緒に検討を進めていただきたい。</p> <p>また、あさひ児童館は地域の児童館としての性質がある。複合化されると地域性がなくなるのではないかと。</p> <p>児童館が大きくなるのであれば、こどもセンターなどの機能も含めてもらいたい。複合化される青少年学習センターは、大人まで利用しているが、中学生や高校生の利用は少ない。</p> <p>現在、児童館は午前中閉館しているが、複合施設になると相当な幼児が来館する。どのような対応を考えているのか。</p>

<p>市の発言</p>	<p>公民館のコミュニティ室は、主に自治会や社会福祉協議会などの地域の活動団体が利用する場として設置している。</p> <p>各公民館によって、貸出の方法は異なるが、地域の実情に応じて、一般団体の貸出やフリースペースとして開放している公民館もある。</p> <p>新たに複合施設内に設置するコミュニティ室についても、地域のための施設という位置づけは変わらない。地域の皆さんの様々なご意見を伺いながら、利用しやすい施設になるように検討していきたい。</p> <p>児童館の関係については、青少年学習センターや国際交流ラウンジなど、様々な施設が複合化されるので、新たなメリットが生じて、中・高学生や高齢者の方々など、異なる年齢の交流が生まれると考えている。</p> <p>広域な範囲から訪れることで、児童館の運営が今までと異なってくるのではないということだが、引き続き、皆さんの意見を伺いながら、検討を進めていきたいと考えている。 (村田生涯学習部長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>淵野辺駅前に自転車駐車場があるため、鹿沼公園から淵野辺駅南口に通じる道路や交差点、駅前広場は、自転車と歩行者が錯綜し、非常に危険な状況である。</p> <p>複合施設内に自転車駐車場を移設しないとのことだが、鹿沼公園の再整備に併せて、公園内に移設することも可能だと思う。</p> <p>また、移設した方が駅前の公共用地の活用について自由度が増すと思われるが、市の考えを伺う。自転車駐車場の移設の有無にかかわらず、自転車と歩行者の事故防止や安全対策は必要である。淵野辺駅南口のまちづくりを進める中で、どのような交通安全対策を講じるのか伺う。</p>
<p>市の発言</p>	<p>駅前の交通量が増える早朝の時間帯は、歩行者と自転車が錯綜する状態もあり、駅南口周辺において、安全で快適な通行環境が求められているものと認識している。</p> <p>自転車駐車場については、市民検討会の検討過程で、個別建替えにより、駅前に機能維持する案が共有され、自転車駐車場を除く図書館をはじめとした6つの施設を複合対象として検討してきたものである。</p> <p>こうした検討経過を踏まえ、現在の自転車駐車場は、引き続き駅前に機能維持をすることを検討し、駅前の放置自転車対策強化の継続、駅前に機能を維持することによる交通結節機能の確保、民間事業者が参入しやすい立地場所の確保などの観点から、民間活力の活用を前提とした駅前での再整備に取り組むこととしている。</p> <p>なお、まちづくりビジョンでは、大野北まちづくりセンター等の施設跡地を移転場所または仮設自転車駐車場の用地として活用し、移転整備か現地建替えを検討することとしており、施設跡地が発生する令和12年度以降に再整備に着手したいと考えている。</p> <p>また、駅前広場等の利用者の安全対策については、再整備の検討を行う上で、老朽化や駐輪需要への対応のほか、自転車利用者と駅前広場利用者との交通動線等を考え、駅南口の交通環境の安全性を整えることが必要と考えている。</p> <p>このため、自転車駐車場再整備や施設跡地の有効活用のみならず、今後、駅南口周辺の一体的なまちづくりの取り組みを検討していく中で、安全対策を含む具体的な検討を進め、次世代に喜ばれる淵野辺駅南口周辺のまちづくりに取り組みたい</p>

	と考えている。 (大田まちづくり推進部長)
地区の発言	<p>一般企業の経営者は、公園事業に全く興味がない。それは、公園事業に携わると収益を得ないで赤字になるからである。</p> <p>なぜ市は、公園事業に軸足を置かないといけないのかというと、大きく分けて2つあると思う。</p> <p>これは、人口増加と税収の増益である。小さな子どもがいる夫婦が、素晴らしい公園がある相模原市に住んでみたいというところが主たる目的だと思う。そういったことも踏まえて、子どもの意見を取り入れていくことが有益ではないか。</p> <p>例えば、鹿沼公園周辺には4つの小学校がある。学校に鹿沼公園のビジョンについての委員会を組織して意見をまとめる。そして、大野北まちづくりセンターに4校が集まって意見交換会を行い、最終的には市にプレゼンをするとう相乗効果が2つ出てくると思う。</p> <p>1つは、他校との交流が生まれる。もう1つは、日本人特有の弱点だと思うがプレゼン力である。小学生が大人にプレゼンをするので緊張するし、何度も練習すると思う。そういった子どもの意見をどのように考えているかを伺う。</p>
市の発言	<p>鹿沼公園に対する子どもたちの意見は、これまでも大野北中学校での出前授業や、「おおのきた公民館まつり」における、子ども向けオープンハウスで、意見聴取を実施している。</p> <p>今後も、子どもたちの利用が多い児童交通公園などについて、引き続きご意見をいただき、反映させていきたいと考えている。</p> <p>また、出前授業のご要望があれば、喜んで行くので声をかけていただきたい。各小学校間の意見交換もできれば良いと思っている。今後の取組みの中で考えていきたい。 (藤井環境経済局長)</p>
地区の発言	<p>鹿沼公園の整備方針では、既存の野球場を廃止し、芝生広場等の多目的広場として整備する予定であると伺った。</p> <p>自然災害が猛威を振るう昨今であるので、防災機能を有する広場として整備していただきたい。防災難民が非常に多く発生すると思う。</p> <p>ここは、中央区の入口だと思っている。通常は、多目的広場として活用すればいいが、防災の広場がほしいので、どのように考えているのか伺う。</p>
市の発言	<p>鹿沼公園多目的広場等の防災機能については、すでに鹿沼公園を広域避難場所に指定しており、防災備蓄倉庫も設置している。</p> <p>今回のリニューアルにおいても、その位置付けに変更はないので、新たに整備する多目的広場を含めて、鹿沼公園が引き続き広域避難場所としての機能が発揮できるように検討をしていきたいと考えている。また皆さんの声を聞きながら検討していくので、引き続きご協力をお願いしたい。 (藤井環境経済局長)</p>
地区の発言	<p>備蓄倉庫は必要だと思うが、他市のような普段はベンチとして機能し、災害等が発生した場合には、かまどや担架になるベンチを導入したらどうか。</p> <p>不測の事態が発生した場合、淵野辺駅で帰宅困難者が発生すると思う。2～3日分の炊き出しの備蓄がある公園であれば、相模原市のイメージアップにつながると思う。</p>
市の発言	<p>鹿沼公園の防災備蓄倉庫内には、発電機、毛布、照明器具、テント、仮設トイレ、担架、救急セット等を備蓄している。いただいたご意見については、先行し</p>

	<p>ている他自治体から情報収集を行い、鹿沼公園に必要な取組みを検討していきたいと考えている。</p> <p>帰宅困難者の対応については、一時滞在施設に非常食の備蓄がある。鹿沼公園の周辺でいうと、桜美林大学のプラネット淵野辺キャンパスが指定されている。</p> <p>(藤井環境経済局長)</p>
--	--

テーマ2	高齢者のごみ出し支援について
概要	<p>ごみの排出は曜日、時間、仕分け、集積場所の指定などルールが細分化され、高齢者のごみ出し支援については多大な労力が必要となるが、将来的にも支援ニーズが増大することが予想され、支援する側を悩ませている問題がある。一般的な庭の草むしりや話し相手、電球の取り換えなどは既存のボランティア体制で対応可能であるが、高齢者のごみ出し支援は、ご近所の親しい間柄でなければ、継続的な実施が困難であると思われる。</p> <p>そこで、一つの解決策として、ごみの戸別収集が効果的であり、令和4年度市自治会連合会政策要望の「高齢者のごみ出しに対応した有料戸別収集」について、市に対して検討要望を行ったが、現状制度を維持しながら検討するとの回答に留まった。改めて現状を把握していただき、再考をお願いしたい。</p> <p>また、一部の地方自治体では高齢者のごみ出し支援を廃棄物部門及び福祉部門の連携により支援制度を確立している状況のようであり、市への導入を検討していただくために懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>大野北地区においては、介護保険の家事援助の一環としてホームヘルパーがごみ出し支援に対応しているが、人的資源が少なく本来、支援を必要としている方への対応が出来ていない現状がある。</p> <p>令和4年11月に他地区のボランティアセンターへの視察を行い高齢者のごみ出しの具体的な支援策を検討しているが他地区のボランティアセンターも満足な活動ができていない。</p> <p>本当にごみを出してほしい人のすぐ近くにボランティアがいなければ、継続ができない。これが一番の問題である。</p>
市の取組状況等	<p>戸別収集については、排出責任の明確化や、ごみ出し負担の軽減、まち美化の向上につながるなどのメリットがある。</p> <p>その一方で、収集ルートの細分化による、運搬経費の増加、地域コミュニティの希薄化への懸念、本市の居住形態の半分を占める集合住宅の戸別収集への対応などの課題がある。</p> <p>本年度は、第3次相模原市一般廃棄物処理基本計画の中間改定を行う時期であり、計画の中で戸別収集や一般ごみの有料化についても検討を進める旨を記載している。</p> <p>年度内に戸別収集や一般ごみの有料化を行った場合の必要人員や車両数を検証するための積算や課題の洗い出しを行っていく。</p> <p>次に、市内各地区のボランティア団体のごみ出しの支援を行っているが、本市では、要支援1・2相当の方を対象に、ごみ出し等の生活支援を行う「シニアサポート活動」を実施する住民団体に対し、補助金の交付など団体の活動支援を行っている。</p>

	<p>なお、粗大ごみについては、本市では「粗大ごみ福祉ふれあい収集」により高齢者のごみ出し支援を行っている。</p> <p>また、大野北地区においては、地域ケア会議地域づくり部会が中心となり、ごみ出し支援のモデル実施を検討されているが、シニアサポート活動や、市内各地区で展開されている住民主体でのごみ出しの取組みについて、情報提供をさせていただく等、運営の支援をしていく。</p> <p>引き続き、廃棄物関係や福祉関係関係部局で連携を図りながら解決策の検討をしていく。</p> <p style="text-align: right;">(奈良副市長)</p>
--	--

懇談内容	
<p>地区の発言</p>	<p>大野北地区は、高齢化率が20数パーセントあり、市内全体の高齢者率より少し低めであるが、居住者が多いので、高齢者の人数も多い。</p> <p>もちろん元気な方も多くいるが、心身等の問題で生活が苦しくなって、ごみ出しができなくなる方も多い。</p> <p>平成31年度策定の第3次相模原市一般廃棄物処理基本計画では、「単身の高齢者等でごみ出しが困難な方への支援については、福祉分野と連携しながら対応を進めてまいります」と表記されているが、福祉分野のどこの部署と、どのような具体的な調整が行われているのか伺う。</p> <p>また、今後、どのように連携して、ごみ出し支援を行う予定であるのか市の現状認識と今後の取組みについて伺う。</p> <p>ごみの戸別収集であるが、令和2年度の廃棄物減量等推進審議会の会議録において、高齢者の戸別収集は、有効な手段であると認識していると示されている。ただし、特定の市民への戸別収集は難しく、収集経費が大幅に増加すると謳われている。費用がどのくらいかかるから難しいと考えているのか教えていただきたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>単身の高齢者等のごみ出しが困難な方への支援であるが、現在、地域が主体のボランティア等によるごみ出し支援を行っていただいている。</p> <p>市の地域包括ケア推進課や高齢・障害者支援課などの福祉部門が相談を受けた場合は、廃棄物部署と連携して、希望する曜日のごみ収集や排出時間の調整を行うとともに、分別方法の基本的なルールの説明等の対応を行っている。</p> <p>今後も、担当部署で定期的な意見交換の場を設け、連携を強化しながら、ごみ出しが困難な方への対応など、市民のニーズに合った収集体制を検討していきたいと考えている。</p> <p>続いて、戸別収集の経費であるが、今年度で本市で戸別収集に切り換えた場合の経費について、調査を進めている。</p> <p>他市の事例だが、近年にステーション収集から戸別収集へ移行を検討した自治体は、鎌倉市、逗子市、札幌市であるが、経費は現状のステーション収集から戸別収集に切り換えた場合、2.4倍から3.1倍になると伺っている。</p> <p>なお、相模原市では、一般ごみの収集体制の約半分を民間委託しており、委託料が約8億円である。戸別収集に切り替えた場合は、この額に直営分の経費が必要となるほか、2倍から3倍となることも想定される場所である。</p>

	<p>また、ごみ出しの支援が必要な高齢者等に限定した収集については、今後ますます必要になると思うので、様々な情報やご意見をいただき、最適な方法を検討していきたいと考えている。 (藤井環境経済局長)</p> <p>福祉部門として、地域でどういったお手伝いをするかということだが、主に地域ケア会議の地域づくり部会がこうした問題を取り上げている。</p> <p>まず、市職員をそういった会議に出席をさせていただき、それぞれのテーマに対して、事前に廃棄物部門などと連携しながら、具体的な提案の対応をさせていただく。</p> <p>今後についても、引き続きこういった支援をしていき、高齢者のごみ出し支援が各地域でうまく定着するようにしていきたいと考えている。 (若林健康福祉局長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>他市では、ごみ出しが困難な高齢者等について、様々な収集方法があり、1つの選択肢として、戸別収集を行っていると同っている。指定日以外や夜間のごみ出しについて、柔軟に対応している地域もある。</p> <p>実際にごみ出しが困難な高齢者は、主に要介護状態の方と思っている。以前、ケアマネージャーに対してアンケートを行ったが、大野北地区にある20件ある事業所の33人から回答を得た。ごみ出しの支援が必要な方は、全体で約1,100件の内、約2割の187件あった。</p> <p>また、本当はサービスが必要なのに何かしらの理由で繋がっていないのが23件あり、ますます増えていくと思う。</p> <p>ケアマネージャーは、介護保険のヘルパーに頼むことが多いが、人数が少ないので、介護保険のサービスに限界が生じている。実際に成功している地域もあるので、是非、他市の状況も調査した上で検討していただきたい。</p> <p>政令指定都市の相模原市に転入する方も増えてくると思う。魅力ある地域づくりという形で、ごみ問題にどう取り組んでいくのか伺いたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>ごみの問題であるが、今年度の一般廃棄物処理基本計画で、ごみ出しが困難な方の対応や戸別収集を含む市民ニーズを踏まえた収集方法を検討すると位置付けているので、今後も検討していきたいと考えている。</p> <p>また、ごみの排出が困難な世帯が増加すると予想されるので、地域コミュニティや介護支援制度等と連携しながら対応を進めていきたいと考えている。</p> <p>ケアマネージャーのご意見も貴重なので、情報提供していただき参考にしたいと思っている。</p> <p>繰り返しになるが、戸別収集や一般ごみの有料化を行った場合の必要な人員や車両数等を検証して、本市に合った収集体制にしていきたいので、ご意見をいただければと思う。 (藤井環境経済局長)</p> <p>他市では、指定の容器やごみ袋にシールを貼ることで、収集日以外にごみが出せる仕組みがあることは承知している。本市では、相武台地区の一部の集合住宅で、こうした事業を昨年から実施している。</p> <p>この取り組みは、あらかじめ登録申請をしていただき、指定のステッカーを封入してごみを出すというものであり、通常のごみ出し時間以外でも、搬出が可能である。普段、同じ集積場所を利用する方々のご理解・ご協力により行われている。</p>

	<p>ごみ出し支援については、シニアサポート活動の利用など、様々な手法が考えられる。今後も市社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーや地域包括支援センターと連携して、大野北地区では、どんな取り組みができるかを考えていきたい。</p> <p style="text-align: right;">(若林健康福祉局長)</p>
地区の発言	<p>老人クラブには、友愛活動というものがあり、その中で戸別訪問を実施している。例えば、旦那さんが亡くなり、奥さんが孤独になってごみ出しができない方の確認をしている。何件も訪問しているが、全体からするとほんの一部である。</p> <p>なぜ、全戸訪問ができないのかをよく考えてみると、老人会がやることと、市がやるのが完全に区別されているからである。老人会の人数は少ないので、市がやれば相当な件数を訪問できる。</p> <p>市が奨励して老人会が訪問しているのに、なぜ市は訪問しないのか不思議でしようがない。老人会に加入していない人にも愛の手を差し伸べて頑張っている。市が奨励しているのだから、老人会だけの問題ではない。市も考えないといけない。そのあたりを説明いただきたい。</p>
市の発言	<p>ボランティアの方や老人会の皆さんが負担になっていることは承知している。高齢者や障害者の方など、ごみを出せない方は、これから増えてくると思うので、しっかり考えていかなければならない課題だと考えている。</p> <p>戸別収集と併せて、ごみ出しが困難な方の対応を検討していくので、これからもご意見をいただきたい。</p> <p style="text-align: right;">(藤井環境経済局長)</p>
地区の発言	<p>規則を変えないといけない。なぜかという老人会員以外は助けてあげることができないからである。そのあたりにメスを入れていただきたい。</p> <p>老人会は、自治会や老人会の加入者だけではなく、孤独になっている方に対してもお世話をしている。老人会だけの問題ではないので、もう少し考えてほしい。</p>
市の発言	<p>大野北まちづくりセンターは、名前のおり、まちづくりを担当する部署であり、区役所が担うまちづくりとは、人間関係をつくっていくことだと思う。</p> <p>皆さんと顔の見える関係で、交通安全対策等を一生懸命やっている。高齢者の問題は、これからどんどん切実になっていくと思う。それ以外でも商店街の問題や教育の問題など、身近な課題から大きな課題まで本当にいっぱいあると思う。</p> <p>まちづくりセンターには、所長や政策担当がまちづくりを担っているので、是非、これからも顔の見える関係で、皆さんと一緒にまちづくりをしていきたい。</p> <p style="text-align: right;">(萱野中央区長)</p>
市長の感想等	<p>大野北地区の皆さんからとても建設的なご意見をいただいた。100人のご意見を全て叶えるのは、なかなか難しい。</p> <p>しかし、多くの皆さんが、この地域に住んでよかったと思えるような後世に誇れるまちづくりのために市民検討会を4年近くやってきた。非常に貴重なご意見をいただいたと思っている。</p> <p>時間がかかったとご意見をいただいたが、市民検討会を積み上げてきたことは非常に重い話だと思っているので、しっかり切に感じながら、まちづくりを進めていきたいし、これからも皆さんと顔の見える関係で対話をして、後世に誇れるまちづくりをしていきたいと思っている。</p> <p>鹿沼公園と図書館の一体整備は、相模原市の財産である。児童館のご心配をい</p>

いただいたが、地域特性を生かして、皆さんが使いやすい施設にしないといけないと思っている。皆さんが足しげく通っていただき、コミュニティが充実するような施設にしたい。

これからも様々なご意見をいただき、民間活力導入可能性調査を実施する中で、市民の皆さんとしっかり対話しながら進めていきたい。

また、駅前広場も考えていかななくてはならない。使いづらさはあると思っているので、土地の有効活用を図っていきたい。これから高齢化が進み、バスの利用者も増えてくるかもしれない。大野北地区には、コミュニティバスもあるので、しっかりと検討していきたい。

子どものジャストアイデアの話をお願いしたが、とてもいい発想だと思った。いずれは、小・中学生にバトンを譲らなくてはならない時期がくるので、子どもたちが描いた複合施設ができれば、やりがいがあるのではないかと思う。大人では気づかない発想を子どもたちは純粋に持っているので、意見を聞ける機会があるといいと思う。まちづくり会議の委員に校長先生がいるので、前向きに検討していただきたい。

今年の夏に中学生による議会を開催した。大野北地区内の小学生や中学生と皆さんによる出前議会をやる面白いと思う。

防災公園等の話があった。すでに防災備蓄倉庫があったとしても、防災拠点になるような、新たな取組みをしていきたいと思っている。例えば、防災用ベンチの導入やバリアフリー型の公園にしないといけないと思っている。

高齢者のごみ出しに関して、日頃から地域包括支援センターの方々には、地域に寄り添った対応をしていただき感謝したい。これからも私たちにどんどん意見をぶつけていただき、教えていただきたい。

「子育てするなら相模原」を目指して、子どもの施設料金の無料化や橋本と相模大野で休日に子どもを預かる一時保育事業を実施する。その後には、中央区内の実施も考えている。その他にも、小児医療費の拡充を高校生まで広げることや中学校の完全給食を実施する。

こういった子育て施策に特化している部分があるが、最近、高齢者に向けた施策をもっと出すべきだご意見をいただく。相模原市は、高齢化率が26%で比較的低いですが、中山間地域だと40%近い地域もある。緑区の若葉台住宅では、ゴルフ場のカートのような電動車を導入して、グリーンスローモビリティを実証している。

新磯地区でもグリーンスローモビリティの実証が始まったが、やはりごみ出しも非常に大きな課題だと思っている。令和4年度の市自治会連合会政策要望に対する回答は、一般的な内容であったことを自分も感じた。やはりトライしていかなくてはならない。

高齢者向けのごみ出しについては、昨年度に東林地区や麻溝地区からも提案をいただいている。改めて、市の責務として、ごみ出しは非常に重要である。

一般廃棄物の第3期最終処分場の建設に向けて議論をしているが、誰1人取り残さないという施策の中で、高齢者や要介護者に対して、十分な対応が必要だと思う。相武台地区の取組みやシニアサポート活動の取組み事例があるが、もう少しバージョンアップした施策を考えていきたいと思う。

ごみ袋の有料化や戸別収集に関しては、この周辺だと八王子市や町田市がすで

に行われている。県内では、藤沢市、大和市、海老名市が行っている。政令指定都市だと、名古屋市、大阪市、堺市、福岡市が戸別収集を実施している。

相模原市には、人口72万人いて、34万世帯のうち半数がマンションなどの集合住宅であるため、戸別収集は難しいとの意見をいただくが、相模原市より人口が多い名古屋市、大阪市、堺市、福岡市ができて、なぜ相模原市ができないのかと話をする。できないのではなく、どうやったらできるのか、発想の転換をしなくてはいけないと思っている。

友愛の精神は、非常に大事なことである。老人クラブの加入者は減ってきていると伺っている。その中で、運動会の実施や地域コミュニティを大事にさせていただき感謝したい。

やはり、老人クラブに加入していない方も含めて、誰1人取り残さないという精神をもっと発信しなくてはいけないと思うし、これまで相模原市をつくっていただいたのは、先輩方の皆さんである。そういった皆さんが、将来的に困らない施策をしっかりと作っていかなくてはいけないと思うので、いただいたご意見も含めて、相模原市も友愛の精神をもっと持たないといけないと感じた。

この大野北地区の皆さんは、本当に建設的な活発な意見を出していただいて感謝したい。中央区役所には、中央区長を先頭に多くの職員がいる。まちづくりセンター職員を育てていただき、一緒に良いまちができるようにご指導賜りたい。

(本村市長)